



一世の人と人との文字を抄くてしむべし後宇多院の御諱

世にこそせむ世のあやもや ヨヒト 一人一人の心はつがひ

更衣は世のあやもや ヨヒト 又なつがひと深と世のあやもや ヨヒト

一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト

色つら ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト

是のうらむき女の色もそのまへにやうれぬ人とりん

一よりさし ヨヒト 不道也 ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト

結こつふ心 ヨヒト 一世とらひさしぬやうに人よ

あはぬ人のやうにせ ヨヒト 一世のこゝろ ヨヒト 継母 ヨヒト 継子の

あひさるれいとも ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト

一よりさし ヨヒト 蕪生又治 ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト

皇

御つらさるるてふりてこそとせりらぐさるるてふり

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

とがらわてふり ヨヒト 一よりさし ヨヒト 一よりさし ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

の夏もはあ ヨヒト の夏もはあ ヨヒト の夏もはあ ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一よりさし ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト の御もも ヨヒト

一 たちうがこ 鼻紙也

一 たちかきいし 杖縁やすし也

一 たちくれ 誰ぞとうふぶほごころくさくさ夕と云也

一 たちゆきうす ともまねやともむいハ由也

一 湫口あつらの子丸 禁中して湫口の宿屋や女人武家

よりともくも也院して武者不じい也源の番の者を湫口こん

得あや

一 大さく 大徳也 徳る法一を

一 大むけ 多田穂とらんくつふ

一 大尺の後ろで 明石入道大尺の

一 代々の虫の川も 播磨国司

とくふ 国司二任四年とて 国司よりりて 父よりに必り

もくやそのまねごとく 福のいひあもるといふがけひも也

一 大納言のびすめ 堂の由也

とまわりぬもぬぞ 堂の戸ごころれがざりんぐまにもあぬと云也

一 たいし 東の射也

一 たいの字とそんくもり

一 大鼓とそんくうらんのもの

一 大鼓をそんくうらんのもの

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一 大いん 禁中して 女房遊のあつあや

一夜の日の暮つてはけりし十一月五日より始若連二三日ハ
 下の丑也位上の丑も有別凡五日ハ舞妓系入寅日ハ
 節の心外月ハ童女ハ流辰日ハ節の終の節會の日也
 辰の日の暮つてはけりし不審也豊明節會ハ同中乃辰
 也若み節の初ハ打まをりて
 一たうどりのつらうあり此節幸官幸爵也
 一大子の志その日進士注曰可進受爵祿者也聖武天皇
 神龜年始進士武帝王系圖進士及身例
 秀也さうかぶづれも進士と云也必しもわ中さうのり
 ねれ云付ゆや
 一大史のぐん河太宰府一員
 中權大貳小貳大監人小監人太典大小令史等あり小貳叙爵
 目申九

時小御と云監叙爵の時大史監と号す大監ハ正六位下小監
 從六位大監ハ正六位下相苗官されど從五位下叙しわ
 れし大史の監と稱さうあり
 一大史大北者觀音のともや
 一たゆさ墮亂史記とりづれとらうきそ際也
 一たのりも引出のぐん長根しびすび付らう根音
 とらうとにちうへてそめ酒のゆとそらう也
 一たさうらうらん六日武徳夜射くく打越の事也
 唐人の娘来りて馬に乗て越子びらびらと打越云其時
 養すうあひ打越系とい也納額利も六日の競馬の日雅宗
 寮是と養と膳負の飢声ハ必競馬しらう也

一 だまがらうさんぐん タイハホシニトリタキヒラフヲ 提婆が採薪及菓蕪隨時恭敬と勤

と多と紙者て花人の彼よりてお奉り日暮のよひそり道より

一 だまがらう 採菓汲水拾薪設食 子時奉事經於子歲

子歳終りのお着びりあが久く経るや子歳終りて

一 後の朝と暮 一 だくぬぐさく 一 おへぎ身より

けりて正の佛入藏されが常在冥路馬山の心もあり我生

見張世々恒る深妙典花らりる事と別てへてなうりや

一 玉の川の源の魂 タニシ井 のこころうらんや

一 竹川の竹河の曲 キマウ とらひしむせりて云や竹のうらみ

也れ紀まにゆりせりてく入てとありゆへあり

一 竹河の竹河 サ 竹河の竹河 サ 竹河の竹河 サ 竹河の竹河 サ

目中上

一 又とらまをり活らんと早下り也

一 だちりうん カホ 意出家のふ宮とされんと思ひし也

一 だつり ガイ 糸紙らり基・針紙冷水捕信線柱と云々

一 猿のやどり シケイ 晨鶏并鳴残月渡征馬連断行人出 白氏文集

一 だつりの ハイ 昔の流るるおぼろ今ハ禁中もてや各拜ハ

一 大内記 ヒキフクセウ 或は捕魚と云

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ 大史 ウツ

一樓の樓のよほあつて心してさくべきさうさうひくとあぶ

酒のつひうらあや

一晩何して張何してさうさ

あふ心のうらうらうらあつて後で変更あれさうさ

一たけうちらちく 笛のさやうが紙和琴さうのさうさ

一玉のさうさ

一たちさうさ 親あはれ中をさ

新説さうさゆせとさゆせ 一たまされ 殯後見葬礼記式

殯へ指さうさ人とさゆせ 殯後さうさ 殯生さうさ

字法のみさ 新説のみささあひさうさゆせゆせゆせゆせ

さうさ

一たよの行さうさゆせさうさあや家

の彩さうさゆせ

れ

さうさ

一わうさゆせ 係氏のりわうさゆせ

目甲士二

一れいのさうさゆせ さうさゆせさうさゆせさうさゆせ

一れいさうさゆせ 月日かしのひらり 令日陰陽寮頭一人

掌天文曆教風雲氣色謂天文者日月五星二十八宿也

曆教者計日月之度教而造曆授時也 氣色者風

雲之氣也言以五雲之色視其吉凶候十二風氣知

其秋祥 應和二年七月廿日 黒雲氣廣三尺許起坤

且良 康和二年正月五日 白雲廣三尺許 經天且東一

西 一わうさゆせさうさゆせ

寮試花鳥 試はれ史記さうさゆせさうさゆせさうさゆせ

擬文章生補さう次の行よ大学寮さうさゆせさうさゆせ

文章得業生ノ補す是と進士ともなり或は前より勅諭せり

まねて試らるる文章生ノ補すのちのちの方略の定方と爲て課

試とらるるものも試とらるる

一れいのとんでん 一うあもをのああられつ削とつち

一れいのうらうら 一うあげまれの額をいつち

一わうわう 陵王樂也 一れいをもせ給 毎月八日中堂

よそや

ろ

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

元服の衆しどひが 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

一うわのうらうら 一うわのうらうら 一うわのうらうら

源中にゆりゆく物よ。い息而の紙力せぬ人活也

一袖の上の玉のさびけしるもらん 末勤

一えれをささうれくも かひく せむれくも

一うらみせうそこ 大貳 せし

と云也 わ

うわや 瑞 事倚杖自歎息 俄 頃風定雲墨色 杜 待

桂嶺瘴東雲似墨 洞庭 春冬水如天 柳 子厚詩

一うひきてほそやうりす ん 俗 さびく と云るそ云許

一うこそいそれそい也 ね びやさ 凍 の明石 い の也

いほそや さ け う まは れ ー こ 也

一うれ人 あ ら ぬ 寛平 遣 紙云 今 頃 云 つ う 中 令 貢 二 人 送

目録五

此其子必令来 貢 負 ひ ぬ と 先 い あ れ ー と 也 せ ち ま づ こ ー

とちり上下 略 一う急 の 驚 が い 流 儀 六 衛 の 也

けい下 と の え ー 懐 宗 何 花 三 妻 今日 主 守 習 目 正 一 人 掌 洞 想 聲

大 つ 勢 ハ 仁 德 天 白 王 う ー 高 懸 う ー つ ー 初 の 頃 知 こ

云 ー ー と 也 一 ー う ー う ー れ ー の ー つ ー ま ー れ

兼 和 ち り 仁 明 天 皇 侍 從 ち り 秘 藏 の あ 不 傳 男 ま と 云 割 も

侍 從 二 方 一 う ー れ ー れ ー 前 の 約 ー 知 ー と

い ー ー と ー あ ー ら 統 而 大 文 の う ー 雲 井 原 の あ ー ら ー さ ー 人 一 成 治

一 う ー 心 ー と ー あ ー ら 一 う ー じ ー と ー や そ ー の ー 大 一 徳 一 の ー 時 一

者 こ ー と ー の ー ま ー と ー 別 ー と ー 心 一 得 一 て 一 一 一 院 一 唐 一 の 一 法 一 師 一 當 一 の 一 こ 一 の 一 心 一

あ の 一 せ 一 い 一 そ 一 の 一 者 一 の 一 心 一 一 が 一 く 一 れ 一 る 一 の 一 心 一 一 典 一 を 一 え 一 也

一 うれれむさめり 楽書曰 師丈之愛易寒暑絲登之感
一 勤風雷之謂琴也 琴書云 師曠晉之樂官也 工於琴
一 純易寒暑占風雨為晉平公 報之感玄鶴下

一 うれれむさめり そのさめりもさめり也

一 うれれむさめり 相也

一 うれれむさめり 再大納言

一 うれれむさめり 正三位 仁隆 奥出羽探察使兼行石道清大將 敦原 然長 保忠

一 うれれむさめり 兼平 六年七月十四日 薨 四十七 号 八條大將 時平 公 男 中

一 うれれむさめり 朔風 坐の元始 保忠の物語の時代 一 されど 一 せり せり

一 うれれむさめり 世中 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 栄花物語 云 院の女山の草送の夜 車れり 院あゆむ

目中十六

一 うれれむさめり くせあり 人 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 八文の度 始て 書 出 初 かの 山 時 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

一 うれれむさめり 一 せり せり 一 せり せり 一 せり せり

伐愁 菅菰

一月日れひりともよ

若葉

異平 明石入る 夏よ

つら

顔よこさや 中略付也 俗よつら

つら づらき 等 ぢり ぢり ぢり ぢり ぢり ぢり ぢり ぢり

きり 旅店等也 貧家

掃地と東坡詩よもも

あり 頗貴 一つはこれこそとらん

甲斐ろく 根ろく 風よこさ

れ づらき づらき づらき

工道風ハ 徒書也 一つはあーのうさ 不審の

あよ け づらき づらき

一つはらうも ち ぬ の け あり

て 節 倉 ち づ の 仕 ぢり

一つはらうぬ ぬ の け あり

一つはらうぬ ぬ の け あり

一つはらうぬ ぬ の け あり

一つはらうぬ ぬ の け あり

一つはらうぬ ぬ の け あり

一つはらうぬ ぬ の け あり

一つはらうぬ ぬ の け あり

一つはらうぬ ぬ の け あり

一つはらうぬ ぬ の け あり

正月子日シツゲノカミハルヒ 登岳遥望四方得陰陽靜シヅカニ 氣除憂惱之徒キヲクニウラノフヲ

一 祿言ヨキコト ねがひもや又神カミ へのりも

一 子日コノヒ ちるに 笑ウツク の南ミナミ 白シラカ 也 正月の子日シツゲノカミ 未カ 餅モチ 多オホシ 也

一 ねうネウ くク じジ ねうネウ とト すス ひヒ うウ とト うウ ちチ ねネ 猫ネコ 字ジ のノ もモ めメ 也ヤ

わうウ へヘ ぬヌ 通トウ するスル 也ヤ 一 女メ 小コ 右ミダマ とト わワ かカ やヤ 一ヒト ありアリ 也ヤ

一 ねネ 茶チ 二ニ 茶チ 后コト のノ 業ノ 年ネン 終シマフ 片ハタチ 一ヒト 通トウ 路ロ 一ヒト ずズ らラ ぐグ らラ ぬヌ 也ヤ 後ゴ 撰ゼン

云クモ 一ヒト づズ ぞゾ ぞゾ 後ゴ 京キョウ 極キョク のノ もモ 不フ 有ユ 一ヒト けケ 一ヒト けケ 元ゲン 良リョウ のノ こコ 一ヒト 亂ラン 也ヤ

一 ねネ ちチ けケ ちチ ちチ ちチ 一ヒト ねネ 一ヒト ねネ 花ハナ 若ワカ

一 ねネ ちチ けケ ちチ ちチ ちチ 一ヒト ねネ 一ヒト ねネ 花ハナ 若ワカ

一 ねネ ちチ けケ ちチ ちチ ちチ 一ヒト ねネ 一ヒト ねネ 花ハナ 若ワカ

一 ねネ ちチ けケ ちチ ちチ ちチ 一ヒト ねネ 一ヒト ねネ 花ハナ 若ワカ

目中世二

一 海ウミ 也ヤ ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ねネ ちチ ねネ 一 万マン 事ジ 一 家ケ 生シ 皆ナニ

捨シテ 離リ 専セン 心シン 教キョウ 願ガン 向キョウ 西セイ 方ホウ 一 ねネ のノ 一 餅モチ 子コ のノ 一 美ミ のノ 聖セイ 女メ 也ヤ

一 子コ のノ 一 餅モチ 一 惟タカシ 花ハナ 一 三サン 日ニチ 祝イハヒ 一 子コ のノ 一 餅モチ 一 惟タカシ 花ハナ 一 三サン 日ニチ 祝イハヒ

とよ

一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ

一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ

一 内ウチ 侍シ のノ 一 典テン 侍シ 一 尚シヤウ 侍シ 一 掌シヤウ 侍シ 一 令レイ 女メ 一 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ

一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ

一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ

一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ

一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ 一 ちチ ねネ ちチ ねネ 也ヤ

云中よりいさる

一ちゆめあけりう

家媚 生花

ちゆめあけりうの心あり。婿^{コノ}うらせ云。女御宗の哥の心也。又生の

字はちゆめあけりうに云はれり。ちゆめあけりうの心也。

一ちゆめあけりうの心也

一ちゆめあけりうの心也

相^{ナツ}道^セ

一ちゆめあけりうの心也

一ちゆめあけりうの心也

長橋らば遠縁故らう

此表裏へうらふ扇也。びりふ東の庭はちゆめあけりうの階橋あり。び

橋^シらりおひりて。此表裏へ向て舞踏^{マユ}の心也。礼儀也。

一ちゆめあけりうの心也。又わらわら也。一ちゆめあけりうの心也。

此代人の心はちゆめあけりうの心也。是は^{ニヒ}後娘^{キコ}ううらうぬ人なれども。

云つちゆめあけりうの心也。此代人^{ナラヒト}法也。

一ちゆめあけりうの心也。花^{ハナ}はちゆめあけりうの心也。

一ちゆめあけりうの心也。ちゆめあけりうの心也。

ちゆめあけりうの心也。一ちゆめあけりうの心也。

べー。此夜^{ナラヒ}やちゆめあけりうの心也。略^{ヒヤク}してちゆめあけりうの心也。此代^{コノ}れ

ちゆめあけりうの心也。一ちゆめあけりうの心也。

一ちゆめあけりうの心也。一ちゆめあけりうの心也。

ちゆめあけりうの心也。一ちゆめあけりうの心也。

ちゆめあけりうの心也。一ちゆめあけりうの心也。

一ちゆめあけりうの心也。一ちゆめあけりうの心也。

一ちゆめあけりうの心也。一ちゆめあけりうの心也。

一ちゆめあけりうの心也。一ちゆめあけりうの心也。

云い難ずくさるるもさやちどりの一

一 なが神うらりうらりうらり 内裏よりとた大尺巻の出入り

うらりうらりやわらわらうらりうらり 二条院より大内よりうらり

の言や天一社よりしり 中御 中央の社や長神女説也

一 中川のうらり 今れ京極川也

一 ながげーのうらり 産後より下也 ちんちんおとちんちん

一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん ちんちんおとちんちん

一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん ちんちんおとちんちん

一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん ちんちんおとちんちん

一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん ちんちんおとちんちん

ほげはふまめどりちり 一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん

目申世田

てどげちんちんや 一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん

ちんちんおとちんちん 一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん

さげつれちんちんや 一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん

一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん ちんちんおとちんちん

現る去尺迦 現生 觀音 當來 弥勒 出世の時地

とくごふをいぬり 結社也 一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん

そらちんちんおとちんちん 一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん

一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん ちんちんおとちんちん

後のうらり ちんちんおとちんちん 一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん

のうらり ちんちんおとちんちん 一 ながげーのうらり ちんちんおとちんちん

一 南極のうらり 世徳云 眞信云のうらり 武徳殿の松原と 眞信云と

一 高野の生タカノらうまよして太刀タチをたて引ヒキらひヒキ勅使チウシたりと
 の多オホクいイ別ワケらうらと也
 一 ともよなるぬれぬのり
 一 ちよとさり 大オホクるルる也 等ナラ閑ケン
 念ネンはるハルぬるもと也 一 ちよくも 弥ニ勒リクのせと也
 一 ちよいイと心ココロおぼれらわづれのせよはライ事セのノも也
 一 ちよいイの傍ナリ 光ミツ恩オン深フカク於ニ乎カ山ヤマ深フカク於ニ見ミ常トコ花ハナ物語モノガタリ
 一 ちよいイのさけ 富フ士シ射イてつツハハ浅アサられレ行ユク也
 一 ちよいイちよい人ヒトもちりゆは 成キ人ジンせバの心ココロ也
 一 ちよいイのさげに ころは也古今コノイマの序ヨももるも人の御ミコトも
 一 ちよいイちよいれもさうコトいハおハまハいハとハ海ウミくハさハるハん
 一 ちよいイのさげがハいハとハさハりハちハらハうハもハまハいハとハさハりハすハぐ
 一 ちよいイのさげがハいハとハさハりハちハらハうハもハまハいハとハさハりハすハぐ

目申並

一 ちよいイのさげとわづれぬふらぬめあふ心ココロ也
 一 ちよいイのさげえハらハぬとをハらハうハに ちよいイこ
 ハ玉タマらハれハるハもハとハさハうハハ 切キ也ハつハひハくハ心ココロ也 人のいハとハさハるハ心ココロ
 也 暮ヨのノうハも 同ドウ也 一 ちよいイのさげのすハり 中ナカ古コのす
 られぬも也 一 内ウチ教ケウ坊ボウ 昔ムカシハ 大オホク内ウチて 物モノ也
 一 ちよいイのさげとわづれぬふらぬめあふ心ココロ也
 一 内侍ウチノツメ ちよいイのさげとわづれぬふらぬめあふ心ココロ也 内ウチ裏ウラ 天テン照セウ大ダイ
 神カミもハまハすハ也 一 ちよいイのさげとわづれぬふらぬめあふ心ココロ也 俗ソコもハまハすハ也
 一 ちよいイのさげとわづれぬふらぬめあふ心ココロ也 俗ソコもハまハすハ也
 一 ちよいイのさげとわづれぬふらぬめあふ心ココロ也 俗ソコもハまハすハ也
 一 ちよいイのさげとわづれぬふらぬめあふ心ココロ也 俗ソコもハまハすハ也

波のくく人の例也

一七瀬 七瀬のきき今世

し毎月もくも也を市の七瀬を和の七瀬云々京中

一わりの流もてしを心丸 狂賀茂鳴瀬 飛鳥 難波 志

賀 鈴麻はゆ也 一七日れいもるじば 弄 幸始乃

礼のもや或は七日ちどく糸結人もあへん

一なべてせれあもれ せりれりもるりよい活ても男女のちど

りりなをどと女院の成久い今もりひりすと津のいもる

らんれ心也 一なりりりり 風俗鳴鳥 ちりり

くくやちりりくくもや大宮れりりりりりりあもれのちり

くく一にどかさをやせとあせそ 二に あかへんえんともや

みそもれ 三に 或ちまとも 弄 不詳由也 何ぢりちりちり

目申共八

一なりりりりトを 中のりれ障も也

一なりりりりちどくもゆるりりりりりりりりりりりりりり

るよのや治左符 記妙も院 桐園の雲夜とゆるりりりりり

無糸内也 弄 六位 禁文丸云くもゆるりりりりりりりりり

くくもるりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

一なりりれこのもくもく せりりいの中れ兄も云也

一なりりれあやも 柳無気力 枝先 勤池有波 文氷 尽用

一なりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

の若も神若もをえんも

一なりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

一なりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

目中央

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

一 舟 舟と 涼の心いふに文とのちと隔つて行のちをいふはこれ

たゆらちちやうもるゝおよと物の漢字の心のさるれいへん

やうもるゝや たふか 湯火 たふ 湯 か 火

ふ月の射射の時中々侍の着をすう前や。紫系系大内の時も
水の陣もそく一糸と糸人とどろよまてたをて扱の程とけ
物也

一ひらき記のつとめか紫のこ

一ひらんの入のゆぞ 并無故乃

袍の夜殺冬平指色いつのれ袍のこも。同云無文の冠其

極如何一各冠幸文巻綴服昔の無文の四羅を用也

一ひらひらく 當服も也 一ひらんのぬちをく 今海成

無友位入や仍恙也 一ひらやれおたらく くらくす

何常葉柄のひのぬまはくへくすり給る時ちぬぬのぬ名のじま

なまらくまら給けりよじまやのおさいつくくくくくくくくくく
してひらひらく 驛長莫驚時交敷一草一落是 一珠

目中西

くくくく詩や地ももちつけごとてまのよゆ也。今み節一

哥をどけりりぬい譯也。昔無物の物と作さるれ

ちすくへくも也 一ひられくくく人た流人

のゆらうゆらい常葉と初てなけれども也

一ひらく 無也 一ひらひらひらひらひらひらひらひらひら

史記曰太初下久不立后後漢書曰位尊身危則多令始

文選曰本秀於林風必摧之 行高於衆人必非也 運命論

一ひらく 母君のぬおち中勢交 醍醐の子中勢交 兼明親王在

在大井川比親主と明名のとのみ君の祖父とつち

一梅のゆり枝てふ鳥さびちひらひらひらひらひらひらひらひら

うらまんのゆり枝てふ鳥さびちひらひらひらひらひらひらひらひら

この家のうちうらうらに光交あわてうらうらとやと白の首ん

れはげんくくこゆげんや

ひまめまの家のいへんくの家

子ころちや

就も版立るや 日本記 日本尊 東夷とさうり一時の火を付

ころるあちうらうらも火を付るや

一ひう物ごころ 任者の物候のより皮婦女をいひ思ふといひ

ご徳母のいひいよりりてさあちやぬるや

一ひうのあちうらうら 後撰云大綱云團理約の家の侍

けりやよ平定文といひてくくひゆて行末よりあちりゆり

けりい女候は賜ふ政大はむくをたてゆはたれは略るべし

目中巻

一ひういれはくかといひけんと紫のゆりちとくけり

ぬべー松よりさそい松よりさちれは松とゆはうせち

一ひうれ例をあちうらて ぬあちうての初は政不政の心

深衣いひる太政大臣はれはぬあちうて院司ちと補と

ねう心や又謙は太上天皇の昔れ例をあちうて院司か

ご定しれう心もさやと 一ひういれの雲よ 慶雲書

星とて天下に流る瑞よとゆらちや

一ひうもあちうらちうらい 是は源承天皇の女よ

一ひうととととひて忠行とと舞よを流るちとつり

一むこの大志 尋常の舞いしもんさるはる正皇や又右と

皇ごいもんさるはる又辰下の舞のあちうらちとつり

一ひくり抱ぐらうも抱えをせうを花七女寺軍とあぶく
以備後物切種族を施入せられしを引く

一ひくりの世にも辛考らういめをせられぬ也

一ひくゆるゆり先二花人の湯湯まゆりて後山入湯

一ひまきひ馬さひの苗時中おほの者と云々

一ひくれ人のあつらとあぶく 糸書云 琴動天地感

鬼神云々 一ひくんの女房 無心

一ひくりの世にもあつらひ 伊勢地決は業年の二糸右とぬすき

あつらひ一ひくゆるや 一ひくり抱ぐらうもさけぬ徳

あつらひ一ひくゆる 一語言太子 何事 無言太子 波羅

あつらひ一ひくゆる 一語言太子 何事 無言太子 波羅

新王うらま 若体魄 容端正 生而十二年不云

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく 一ひすひとく

うらなひのつらき 何事にもあはれぬ ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき 荒れわたるにやまの 風吹きの ちかみこころの

うらなひのつらき 何事にもあはれぬ ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

うらなひのつらき ちかみこころの けしきよ

まよひのうら

一うらひのうらめくる 深衣のふ

とらふらうらうらうらうら

一うらひの心ちをて 深衣のふらう

つらうらうらうらうら

一うらひのうらめ びんをうらめ

うら

一うらひのうらめ 深衣のふらう

うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

うらひのうらめ

一うらひの心 魂心也

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

うらひのうらめ 深衣のふらう

目中四十

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一うらひのうらめ 深衣のふらう

一 舟あり 舟の 花 経高の 舟が 櫓の小戸の 煙海 ちりちり

ひ出ぬる 舟ちりちりちりちり 海は 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

は 乳と 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

ありまじら 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 海は 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

目録

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の 舟の

一 斎藤のひめ イハヒメ 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

の

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

一 斎藤のひめ イハヒメ のこの世の鴨のこ

時をせめてびなつたつてせめて人なれん

一のちう二月をさしとて馬とくしらすを馬射をせり

三月も舊暦本院の忌月なれど又延り也

一のやうてのせあつてのせとつとも同一上右の事也

一のやうてのせあつてのせとつとも同一上右の事也

一のやうてのせあつてのせとつとも同一上右の事也

一のやうてのせあつてのせとつとも同一上右の事也

一のやうてのせあつてのせとつとも同一上右の事也

一のやうてのせあつてのせとつとも同一上右の事也

一のやうてのせあつてのせとつとも同一上右の事也

一のやうてのせあつてのせとつとも同一上右の事也

目出四十五

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

一のり地 勝負の地也

衣下帯の髪とあつらふも
カミ
ホシギ 針釵など

一 くれえ人も 禁中法洞ナシタくられて月とゆゑんずらふ母であら
チ
らふの帝の月ナシにうまはるはるんれ心や
ス

一 くれおや 玉親團タマノチノトあれはぬべー 國のあやと
チ

一 六条院のち工天皇の号号とえあはるは
シ
うらまはれ海へうらまはるや
ウラ
おほやけのあはるは
ホ
の天子と憐作ホサしてあはるや
ホ
は成まいつあはる号とえあはる
ホ
一 おほやけのあはるは
ホ
そのわらふと
ホ

一 くれんさ 冠者クラノヤやえ服ウヅする人をえや
ホ
らと書らふあはる

一 くれんさ ぐり手クダテや或腐アヘ不ホよホくし

一 くれらげらる くれらるや
ホ
くれらるは
ホ

一 くれんさ 権チ也 一 くれんさ くれらる也

一 くれんさ 草子クサシや何ナニまはれナニ也 一 くれらるがまホく あはらる

一 くれんさ 實ジチあはるいつホやふつホあはる心ココロを辨シしてあはる

一 くれんさ くれらるは 一 くれらるは 一 くれらるは

一 くれんさ くれらるは 一 くれらるは 一 くれらるは

一 くれらるは 一 くれらるは 一 くれらるは

一 くれらるは 一 くれらるは 一 くれらるは

一 くれらるは 一 くれらるは 一 くれらるは

一 くれらるは 一 くれらるは 一 くれらるは

一 くれらるは 一 くれらるは 一 くれらるは

一 くれらるは 一 くれらるは 一 くれらるは
家室カシラな原氏ハラジ四十九シユジュウキウ自ミヅ乳チ文ジ後ノチは相去アハライ朝アサ總サウ書ショ之ノ見ミ文ジ釋シヤク一ヒト生ナマ

人必減釋者未見梅檀之類亦及良策天人猶逢五載

自出別文一何也

爵也賜也五位より爵位の初なり花人より一様の本

あり一月六日叙位三位の花人の必地爵を後又位下叙

きしりしりや私云花人よりこのかきしりしりや

と云もつらまると云何也

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

田中四十一

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

一くくくくくく

車ホと云や

うぬ焼物の名や

一 官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす 深ハ流罪

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

一 一官爵と云はれす

氏とバネよむ人ゆりすゝ... 後梅五拾心丸

一 くらつれ 今素山賊玉愛岩都々月小堂心正誓成也

一 聖極下社心寛仁二平十一月廿六日陣定ありて官符をさ

されおつめは物候くらつれ心さうらくらんと云はば也又

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

目中事

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

一 くられおのまはし 紅上襟袴と服の時ハ黄からよ潔く一暮の

山風吹くも又人の心も

源氏月夜卷第五

や

一やんごころも 無止むればほやと腐人なすや心位

さる人の心もいさよれぬぬらむむらさきはつり

一楊貴妃 長恨歌なり 一やたのひて やいぬせ

腰浪跡き 一やまゝさう 和國のおや日本

お人の心もあふやまゝお人よささのひも筋月とさへ

これぞ右条仲生光孝天皇とおへはらうやまゝおや下

の詞よお人の心もいさよれぬぬらむむらさきはつり

一山づらの山ろに枝とまやづづかの早下や怪子のあゝつり

目下事

一やきき ちつとややうとちつとや

一やとやとつ声や 一やとやとつ声や

一やこころや止や又病やあまゝと

一やうくもさ 一やうくもさ 一やうくもさ 揚名所

ニテのろりしつや新橋在令難中源氏物語揚名所のや

忠告親長よ忠告のやとつり送りけり右条雅朝のや

つとむらさきもまゝはたがの宿れわくれさるべしとられ

一や一忠告のや

ころわたりよそれとどなりつとるやまゝぬみかんのやと

昔より秘するもいさよ 一山づらもさだむら 古今の序の

約や 一山のこれ 山れもは源よあゝ

一山がりのひぐらしは 山伏や伏といふ世のわかれて山林のあす

一やあらしの 教条

一山人のあらしのこゝろ 文選潘安仕在賦曰 榮下纂纂年實

離事文類聚 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌 見安期生食 臣東大知 今案あらしのこゝろ 事の執事

一山ぐらゐらゐられ 山口の山入のうづめをまや 伊勢造文のあらし

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

目申幸三

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

一やまのこゝろ 秋の長と 万葉才一云 天皇詔 門大に 朝臣競勝 春山万花 秋山千葉 秋時額 田王の歌

御もさうめい... 一番下製の及時... 十一月... 御の榮... 皆曰... 一山... 一陽成院...

目中五十四

一山... 一山... 一山... 一山... 一山... 一山... 一山... 一山...

らんまのむら

ひらひらしてゆくてのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一 ヤトリキニ 寄生ぬえんくうのむら

一まさざがり ぐさざがりづれとよめそふ心也

け

一げらうの更衣 ヒキギ 地氣流の三四位の志ろふ家女らるべし。更衣

と三階よりくちてくわくまらしてハ。擗臺の更衣に中れ也

一けふくむぶらりりも 更衣の室よそののりさつら

一けらて 地ひひらや。ちちぐもそもさやと心也

一けうあをけか 奥あまし

一けしきとこ ざれとよまよ。上れ初つて心さめり也

一けらひ ヒキ 氣果花 ケハニ 形勢 一けらめ ケヒメ 結目 擗目

一けらうあめぬ ヒキ けすくあめや ヒキ 不下習不性

一けらうと ケナカキ 氣道 一げらう ケナカキ 下宿也

目録五九

一けらく タカ 喘息也

一けらく ケナカキ 暮のこも也

一けらう ケナカキ 息也

一けらめ ケナカキ おどろこもされらる也

一けらうと ケナカキ 氣脚 氣外

一けらめ ケナカキ ろろろ 氣めろろ也

一けられぬか ケナカキ 氣をさうらや

一けらとあつたれく声さうめきと也。く。息さうび

くろくも也

一けらひ ケナカキ いひひららわら

海氏のぬぬとけいひつむとびらら。あさる也

一げんこのおこるひと ケナカキ 験方也 ねるももんごんのあつと云日

一けらら ケナカキ ねらる 横ごとのぬえいづらも。さうららるや也

一けらら ケナカキ ねらる ねらるも。さうららるや也

一けらや ケナカキ 海

一海氏のおけやけと 海氏

親王^{ミヤノミヤ} 近衛^{チカノエ} 源氏^{ミナモト} 姓^{ナリ}と^シり也。他^タ 光^{ミツ} 源氏^{ミナモト}

一 ^{ウツク} 源氏^{ミナモト} の^ノ 姓^{ナリ} 也 ^{トシ} 一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁

けうと^{ケウ} とも^{トモ} ぶと^{ブト} 花^{ハナ} と^ト とも^{トモ} ぶと^{ブト} ち^チ ぶ^ブ どの^{ドン} けい^{ケイ} ぶ^ブ ぶ^ブ 一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁

ら^ラ 心^{ココロ} 也 ^{トシ} 一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 長^{チカガハシ} 神^{カミ}

物^{モノ} 忌^{イミ} 也 長^{チカガハシ} 神^{カミ} 方^{カタ} 遠^{トホ} 八^{ヤチ} 日^ヒ 六^{ムロ} 日^ヒ 讀^{ヨミ} す^ス 也 又^{マタ} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ}

か^カ ぶ^ブ さ^サ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 天子^{テンシ} け^ケ ね^ネ 地^チ 忌^{イミ} り^リ あ^ア へ^ヘ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ}

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 揚^{チヤウ} 焉^焉 あ^ア へ^ヘ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 源^{ゲン} 氏^シ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 の^ノ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 翰^{カン} 林^{リン} の^ノ 人^ニ 出^デ 就^{ジュ} する^ス 也 韻^{イン} の^ノ 字^ジ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ}

切^キ 韻^{イン} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 何^{ナニ} 字^ジ と^ト 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 韻^{イン} と^ト 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 又^{マタ} 韻^{イン} の^ノ 中^{チュウ} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ}

と^ト 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 韻^{イン} の^ノ 又^{マタ} 文字^{モノジ} の^ノ 中^{チュウ} 平^{ヘイ} 声^{セイ} の^ノ 字^ジ と^ト 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 韻^{イン} と^ト 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

又^{マタ} 何^{ナニ} 韻^{イン} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 作^{サク} 者^{シャ} の^ノ 心^{ココロ} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 の^ノ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 衣^イ 臺^{ダイ} の^ノ 中^{チュウ} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 後^ゴ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 乃^ノ 女^メ 中^{チュウ} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 の^ノ 姓^{ナリ} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 帝^{テイ} 主^{シュ} 親^{シン} 主^{シュ} の^ノ 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 の^ノ 中^{チュウ} 絶^{ケツ} する^ス 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 化^カ 粧^{ザウ} 力^{リキ} 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

一 ^{トシ} けん^{ケン} ち^チ ぶ^ブ 縁^縁 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也 一^{イツ} 流^{リウ} 何^{ナニ} して^{シテ} も^モ ぶ^ブ 地^チ 忌^{イミ} 也

まろにけい代の花とハ鴨は茶代茶と云ふ。その並良花用は湯の如く

一 けやうもつらうもつらうれ 若垣の舞の男の女まぢりて家玉

とて紙をわらうと女のあやうづらう人のまじりてなごもぞつげうん

けのひ家のごま約と年へはけいひ家のと。おまの助音一のくさや。

一 源氏のうちうらと名よ 兼若地流源氏の打つと名うのねり

一 けいひの汁の所とあまるといへん

一 けいひのくさや 一 けいひのわさう 一 けいひのわさう

目次

夕暮の前の河上世中とむらうの海一とあまうもあまうと

一 源中納言 兼中納言のくさう河のまのとも又推本も中納言

の春のごとくむらうのなすあまうのまのとも又推本も中納言

一 けんごう 兼の助言也 兼見流の心也又現記也けいひと云

一 けいひのくさや 兼の助言也 兼見流の心也又現記也けいひと云

一 けいひのくさや 兼の助言也 兼見流の心也又現記也けいひと云

一 けいひのくさや 兼の助言也 兼見流の心也又現記也けいひと云

一 けいひのくさや 兼の助言也 兼見流の心也又現記也けいひと云

一 けいひのくさや 兼の助言也 兼見流の心也又現記也けいひと云

一 けしやく 授易也カキキと入らうととまらうとめげし地とゆふと

一 ふフ 皇太子七歳ミコノミとせしづれも將士カサセとて此証シなる程序チヨトキ

とつふふ字とあそびとそびりや 此証シなる程或ハ貞觀チンガン政変テイヘン

とつふふとせしづれも皇太子七歳ミコノミの例あり

一 舞踏マキテの舞足踏マキとる

一 貧福ヒシフクの二道也 富敵フカノ女易嫁メカシユメと卑輕ヒカク其丈シ

貧家ヒシカ女難嫁メカシユメと晩老バンラウ於姑オトコノハハ文集モノガタリ

一 風病フエビ也又腹痛フク也

一 風病フエビ也又腹痛フク也

目中六十二

一 子用フコヨウ也

一 二藍ニアイと云ふ

一 不使フシ也

一 不使フシ也

一 不孝フコウ鳥也

一 不孝フコウ鳥也

一 不孝フコウ鳥也

一 二回ニクワイのさか

一 一づげんイツゲンの地チ

菩薩ボサツ象ゾウ大白象オホシロゾウ鼻ハナ如紅蓮ニシキレン華ハナ色イロ觀音クワンオン賢ケン經キョウ

一 獸ケモノの皮カバとつらつらとぬき

まれよまする地こりり。船水衣あふるんま。歌名也如龍こりり。
拾遺云。わらわのくまふねと。花が将入。横河。すきけり。
中。あふりけり。けり。号。を別紙

一 五でのもりりらるるせ。お月を記のち記也

一 五のいん。わが詩を披露する所。中。立。う。文。甚。せり

らそ。れ。兼。ら。そ。そ。文。人。ら。も。ハ。階。下。よ。す。そ。そ。海。嶼。す。ら。也

一 夜のそんしあふ。花。お月やけ。ぶ。ら。あ。ず。く。入。て。た。人。に。此。亭。は

て。若。葉。実。ら。ふ。又。天。曆。三。の。四。月。二。日。死。者。舎。在。於。実。の。和。奇

管。能。あ。り。一。あ。さ。り。ら。ら。不。詳。さ。ら。ら。人

一 一。つ。ら。ら。花。あ。り。し。は。長。恨

丹。唐。中。外。多。く。見。輩。食。寒。さ。り。乎。白。氏。文。集。分。十。二。唐。中。外

目中本三

勳。処。旧。枕。故。衣。誰。と。去。ふ。を。叶。原。心。也。永。正。七。七。六。記。云

一 五。ら。や。う。ら。り。つ。不。定。也。一 文。主。の。子。武。王。の。お。ら。ら。ら

史。記。魯。世。家。周。去。自。稱。河。下。り。成。主。の。何。と。け。給。ん。と。す。ん

と。け。り。い。ぬ。え。の。周。王。の。手。位。の。つ。あ。り。の。み。く。ら。ら。武。王。に。後。に。成。主。の。位

に。付。ぬ。ら。ら。ら。い。物。成。と。ら。ず。く。て。い。ら。ら。年。隆。院。の。脱。履。あ。ら。ふ

今。上。れ。位。に。付。ぬ。ら。ら。ら。や。ら。ら。年。隆。院。の。次。に。成。主。の。冷。泉。院。志

に。位。に。付。ぬ。ら。ら。ら。お。遠。す。ら。ら。ら。成。主。の。何。と。け。給。ん。と。す。ん

ん。と。け。今。之。の。成。主。と。ら。ら。ら。か。ら。ら。ら。心。也。我。文。主。ら。ら。武。王。ら。ら

成。主。ら。ら。叔。父。也。於。天。下。亦。不。賤。也。

一 文集 白。赤。夫。の。詩。賦。と。わ。つ。め。ら。ら。七。十。二。卷。あ。ら。は。長。慶。集

と。ら。ら。一 五。ん。の。つ。ら。ら。勅。石。書。司。云。

仲也

一 白くもくもく

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ 後進 御自民 女の熱名也

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

目録

一 夜の暑気也 草葉のひらひら 暑気也 草葉也

一 九日のそん 皇陽宮の天皇南宮よ 出れまて 内侍介奇等

ある文人博士とて びとまて 各顔のまをまて

を侍をゆて 海すまて あり

一 中納言のそん 中納言のそん 中納言のそん

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 ことさきいひ くらげのひらひら

一 らんがしニカカシのす 金剛ニカカシ子念珠ニカカシとくらうらうらニカカシの元興寺ニカカシ頃財ニカカシ

一 懐キタ多九キタよろキタころキタ 一 えんちキタらキタれキタふ 神酒キタ壺キタ 朝キタ

一 馬キタと貴布キタ祢キタの中に傍キタ心キタ谷キタと云キタふ 茶師キタ以キタ不動キタの靈キタ破キタの

地キタや茶師キタ以キタの壺キタと傍キタ心キタ谷キタの送キタ物キタとキタひキタやキタ

一 ことばキタおキタるキタ人キタと 物キタとキタつキタつキタ云キタやキタ

一 心キタくキタわキタらキタるキタれキタは 又キタ多キタ人キタは茶キタのキタつキタをキタあキタへキタいキタとキタやキタ

一 ころキタもキタころキタも 夢キタよキタ六キタ茶キタの息キタ取キタの伴キタ也キタ

一 こと人キタのいキタらんキタやキタらキタに 今キタぬキタはキタ湯キタ氏キタのキタめキタらキタとキタちキタれキタはキタあキタつキタことキタ

一 心キタくキタわキタらキタるキタれキタは 又キタ多キタ人キタは茶キタのキタつキタをキタあキタへキタいキタとキタやキタ

一 ころキタもキタころキタも 夢キタよキタ六キタ茶キタの息キタ取キタの伴キタ也キタ

一 こと人キタのいキタらんキタやキタらキタに 今キタぬキタはキタ湯キタ氏キタのキタめキタらキタとキタちキタれキタはキタあキタつキタことキタ

目録 第九

一 ころキタもキタころキタも 夢キタよキタ六キタ茶キタの息キタ取キタの伴キタ也キタ

一 こと人キタのいキタらんキタやキタらキタに 今キタぬキタはキタ湯キタ氏キタのキタめキタらキタとキタちキタれキタはキタあキタつキタことキタ

一 ころキタもキタころキタも 夢キタよキタ六キタ茶キタの息キタ取キタの伴キタ也キタ

一 こと人キタのいキタらんキタやキタらキタに 今キタぬキタはキタ湯キタ氏キタのキタめキタらキタとキタちキタれキタはキタあキタつキタことキタ

一 ころキタもキタころキタも 夢キタよキタ六キタ茶キタの息キタ取キタの伴キタ也キタ

一 こと人キタのいキタらんキタやキタらキタに 今キタぬキタはキタ湯キタ氏キタのキタめキタらキタとキタちキタれキタはキタあキタつキタことキタ

一 ころキタもキタころキタも 夢キタよキタ六キタ茶キタの息キタ取キタの伴キタ也キタ

一 こと人キタのいキタらんキタやキタらキタに 今キタぬキタはキタ湯キタ氏キタのキタめキタらキタとキタちキタれキタはキタあキタつキタことキタ

一 ころキタもキタころキタも 夢キタよキタ六キタ茶キタの息キタ取キタの伴キタ也キタ

一 こと人キタのいキタらんキタやキタらキタに 今キタぬキタはキタ湯キタ氏キタのキタめキタらキタとキタちキタれキタはキタあキタつキタことキタ

一 ころキタもキタころキタも 夢キタよキタ六キタ茶キタの息キタ取キタの伴キタ也キタ

この多子よきとてゆけり哥ありと略す

一この町よりとす忽の人のひつてくせれとくき近光天曆の

聖代とてちりしり冷泉院とて天曆の所よりなる人ゆりや

一これ去より内のお殿のつらせ法華堂 飛鳥寺 倭館ありし

てりり樓閣観ハ融云山法後よりいぬり清涼寺の東に法院

堂也法橋上人嘗て法華堂建すと云

一このとちりしり 小寺付殺のり敷九と羽の下とていふ

常のいほりさうりし付也 桑よりさうり守 蘇藩菊れ枝えも

付也とちりしり物わんぶらりしとていふ敷ぬべし

一近傍つとれ名とていふ所の地の中 今桑物節と云い近傍

の舎の中東遊は違とてり物節と補とて中一番長府

掌ちとてまじりし也是よりして春日奈美奈奈の使の羽林楽遊

のと来十人がりしり物節の近傍 赤子駿河舞ありと云

とつとちりしり陪従の府生れ中 又あり物を用り陪従も

近傍の官人や陪従の和琴下笛あり吹地と云也 略す

一これやとちりしりやがとちりしりや

一故大納言いしとていふ 大鏡云三条院の時より右より

とていふけり内より大納言の女の右より右より

大納言で賜た政大臣よりしてとていふ右よりとていふ

一子代とちりしり 史記 明君知臣明父知子

一又とちりしり 源のまのいしりしり又とちりしり 惟光がひ

めとちりしり 同伝源氏とていふつのかとちりしり 可統むすめと

おろろ人よけ作らるる。又受れかゝ國司も人々也。是を内

裏の式敷と云ふ也。 一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

やみ細のり也。 一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

河とぞん面せとつゝる。一おろろ人集はれつゝは、クナハ赤

ら方はよわらふ也。一おろろ人集はれつゝは、クナハ赤

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

帰漢軍敗之故也。後又從漢攻胡之時止胡人欲敗漢也。此時弃

胡妻子而漢不入皮人割圍之。号敵也。值人也。仍兩國意發之意叶

物語論云々。 一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

一こまのぞこ 二海もろとつゝひ

菅菰の定は自袋に細本を也 こま 一こいの山にちかくれこうれ

花今榮孔子のうれに云るに昔より世れにまはるるまはるるまはるる

ほくの聖人かれに可なりてさうりもれまにまはるるまはるるまはるる

まよまよす ま 一これ思ふらち 是に思ふらちま

一これれもえいちまに也 こ 一こまの物くらち 枕まのまも地

彼の者よども也 こ 一このまわりの 好こわりの也

一こついでいひう 空もつるちまをたやいもつるまはるるまはるる

ひいももくこも本もまを花鳥 こ 二鏡あけぬらちまにひうはるる

ぬすうらうくまもり也 こ 一こはるまにば 引寄る動

一こうちまにひまがら こ 一けらちまにがら こ 一ま也

一これおれつりせんさいのせん こ 一まはるら こ 一中宿のトがなぬる也

一うゆひ 由もまもる 勝とりのゆり也

一こらうれまの 古老のまの也典傳也二人もまもる人も田舎のまを聖人を也

一こらうれいふまのうれははるら こ 一知梅の扇織地のほそるまはるる

まらまらまらまらまらまら こ 一こまもれまらまら こ 一これ思ふ

まらまらまらまらまら こ 一こまもれまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

一こまもれまらまらまら こ 一これ思ふ

夏は美し居し冬は林は居しけりあらしは冬は居し十月の

一 小松のつまれしもの スヘトキキ 事なきよりのひらけし海も幸しうる

一 二もれ ユモリ 敵地 コモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 三もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 四もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 五もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 六もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 七もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 八もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 九もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

目中七五

破はくくぬよ六の破もよ六の破六指の破と云心也

一 一もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 二もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 三もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 四もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 五もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 六もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 七もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 八もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 九もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

一 十もれ ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地 ユモリ 敵地

あはれうそりつち

あはれうそりつち

まの心琴もも相はのまづひのそんこれ心也

一琴れとあしう後 拍はれこれあそくも落葉文琴も引給の

ぬれ心也昔伯牙鐘子期とて二人なるのて琴とて引一人あはれ

鐘子期あて後よ伯牙のあう今より後我琴とて安知者もまこれ

むひぐもてわさうと也これと伯牙と後と後とはひつち

一声つつりつち 琴 葉傳信のまも夕き方と拍子のあまるとも

一これのこももさあへるもそ 落葉の思史を引あへるもそ

あはれまのうそりつち也 一これよんぬられあつたことと

代に拍まふぞもらひつちのまの也

一これあはれまのうそりつちの也 二まも中新月も二子里外故人

目申上六

一うそりつち 業障

一うそりつち 業障

一これあはれまのうそりつち まおと夕き方と拍子のあはれまの也

一ひるまのうそりつち あふ日と云も也 一これあはれまのうそりつち 天人の心れと也

一これあはれまのうそりつち 香也 二十二拍の吹二の色完より香也 大徳宗師御香跡ま

せつりつち 一室まのうそりつち 聖法太もも同

一心のうそりつち 心をひらけれ也 一このまも人 一まも人をも合れ

一これあはれまのうそりつち 後末の舞の舞の菩薩のゆれ

一これあはれまのうそりつち 琵琶は 撥かまひるを隠月と云面白也

木子鳩琵琶詩云月分法也 一これあはれまのうそりつち 我思

まのうそりつち 一これあはれまのうそりつち 我思

一これあはれまのうそりつち 我思

法華經の前の巻は、法華經也

一天地こころをくく、てん地こころをくく、

一天はひまわり人の、生天先墮三途、天は生く者あり

して三途はつるもの、又縁はひいてつる、一時

天は生くもの、天人の多く人をくく

一天のまかこ、天眼也、一天へんちをくく、天が志

きく、一蝶鳥は八人、空のうげ

舞舞のまかこ、童の、舞舞人あり也

一てふい、童の舞舞、舞舞人あり

一てふい、舞舞、舞舞人あり

一舞上人の、舞舞の、舞舞人あり

目中十終

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり

きく、舞舞の、舞舞人あり



